

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市宮城野障害者福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会
3	指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成30年度 8,332人（前年度比92.5%） ・平成29年度 9,011人（前年度比90.7%） ・平成28年度 9,934人（前年度比94.5%）
		《事業》 ○貸館事業：障害者の自主的な活動及び障害者の福祉に関する市民の自発的活動のための施設の提供その他の援助 ○障害者の福祉に関する講習会の開催その他福祉に関する啓発活動 ○障害者福祉センターの運営管理
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 27,041千円（26,156千円） ・ その他市が負担した費用 3,836千円（1,817千円） ※H29については他施設分を含む ()は前年度決算額 《収入》 ・ 使用料収入 0千円（0千円） ・ その他収入 1,100千円（500千円）
		《実施状況》 平成20年度から利用者アンケートを実施。今年度の回答件数は127件であり、職員の挨拶・対応・説明・身だしなみ・清潔さ・印象の6項目について5段階評価。全項目が4点前後であり、高い評価を得ている。
6	利用者の声	

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	協定書及び仕様書に則った管理運営がなされている。条例を基に、施設の設置目的を踏まえた基本方針が策定されており、施設内への掲示や所内研修、センター内他法人との合同会議等において職員間、事業者間で共有が図られている。 周辺の商業施設と共同で障害に関する啓発活動の実施等、施設の設置目的に沿った取組みがなされている。	24/24
II	施設の運営管理体制	センター内他事業所とのミーティングや調整会議を通し、適切な運営が行われている。また、会計経理業務も適正に行われている。また、災害時における対応策の見直しや行動マニュアルの作成等を通して災害発生時の対応体制を整えている。避難訓練の際には、地域懇談会等への参加を通じ、有事の際の協力体制の構築を図っており、継続した取組みが行われている。 なお、今年度は、個人情報の取扱いに関して不適切な事例が発生した。指定管理法人におけるコンプライアンスの徹底が今後さらに必要である。	28/30
III	施設・設備の維持管理	清掃委託業者のみならず、職員も定期的に館内を巡回し、利用者が安全かつ快適に利用できる環境が維持されている。 また、仙台市環境行動計画を基に節電、節水、ごみの減量等に取り組んでいるほか、利用者に対しても、環境に配慮した行動の呼びかけが行われている。	24/24
IV	サービスの質の向上	全職員を対象に外部講師による接客研修等を通して接客マナーの向上に努めている。利用者アンケートでも4点(満足)以上を得ており、ある程度高い評価を得ている。 利用者への説明を全職員が可能となるよう受付窓口に業務手順を掲示したり、パンフレットやチラシ類にはルビをつけたり文字を大きくするなど分かりやすく情報提供できるように努めている。	28/28
V	施設固有の基準	日常的に敷地内の点字ブロックや通路等を点検し、利用者にとって利用しやすくなるよう、施設の維持管理を行っている。また、利用者アンケートに基づいて各種講座を企画する等、ニーズを取り入れた施設運営に取り組んでいる。 貸館団体の取組みを冊子にし、町内会に配布する等の情報発信も積極的に行っている。	9/9

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%; text-align: center;">加点評価</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">—</td> </tr> </table>		加点評価	—
加点評価	—		

四 評価総括

《指定管理者（仙台市障害者福祉協会）による自己評価》
<p>仙台市宮城野障害者福祉センターでは、同居する各法人が担う実施事業の相互理解を深めながら協働し、各事業サービスの向上と障害当事者の社会参加及び地域交流の促進に努め、共生社会を目指した福祉事業の推進に取り組んでいる。今年度は、新たな取り組みとして、当センター利用者や地域に住む障害のある方々の芸術作品を展示する「元気アート展」を開催(H31.3.12～3.16計5日間)し、25名の方々から計51点の作品を出展していただいた。地域住民の方々や作品を出展された方が家族や友人とともに来館し、観覧していただくことができ、新たな社会参加や地域交流の場を創出することができた。また、地域交流や障害理解促進にかかるその他主催事業(各種教室やコンサート、センターまつりなど)の開催では、利用者等からの声に基づく内容を企画・実施し、昨年度の参加実績(計336名)を上回る520名の方々に参加していただくことができた。創作教室に参加された貸館利用者からは、創作教室で行ったものを自身の所属する障害者団体の活動に取り入れたいとの相談もいただき、講師調整や備品貸出し、創作にかかる技術支援などのサポートを行い、自主活動の活性化にもつなげることができた。</p> <p>地域防災に関する取り組みでは、仙台市危機管理室減災推進課と連携しながら、「市民防災の日」シェイクアウト訓練への参加及び福祉避難所の開設訓練を実施し、有事に備えた準備意識の向上に努めた。また、地域の連合町内会が主催する合同防災訓練にも参加し、住民間の意見交換を通じて、顔の見える関係づくりと地域防災の促進に取り組んだ。</p> <p>次年度においても、関係機関や住民団体等との密接な関係性構築に努力し、障害福祉の発展に寄与する事業運営となるよう励んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設内の他法人との連携を図りながら、協定書及び仕様書に基づいた適切な施設の管理運営がなされている。</p> <p>東日本大震災による経験を踏まえながら、定期的な防災・避難訓練の実施はもちろんのこと、緊急連絡網の作成や災害時行動マニュアルの作成により、職員間で災害時の対応を共有している点や、地域の懇談会にも参加し、災害時の福祉避難所として町内会への周知を行う等、平常時から地域住民からの理解を得るための取組みを行いながら災害対策を整えており、地域の障害者福祉の拠点施設としての役割を果たすことを継続している。</p>	A

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課